

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症対応型共同生活介護事業
(ユニット名)	グループホーム花の里2
所在地 (県・市町村名)	長崎県諫早市福田町3316-3
記入者名 (管理者)	石丸 智英
記入日	平成 19 年 9 月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>今までの理念が入居者に分かりやすく定着しているため、前の部分の理念も活かして作りあげている。</p>	○	<p>入居者や地域のニーズ等、変化に応じて、そのニーズに沿った理念を作りあげたい。変化に応じ、柔軟な対応を今よりさらに取り組んでいきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝、申し送り時、理念を唱え常に意識のもとで取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も日々、理念を意識し、具体的なケアに活かしながら職員同士の意見交換等を行い、意見の統一を行っていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>契約書、法人で開設しているブログにも掲載し、家族や地域の人々に理解してもらえるよう努めている。</p>	○	<p>家族会等、折に触れ伝えている。今後、民生委員や町内会の会合に出向き広めていきたい。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>行事の度に、案内を出し、参加の呼びかけを行っている。日常的に散歩を行い声かけ合い日常的な付き合いが出来るように努めている。</p>	○	<p>今後も、日常的な交流が出来る様に、関係作りを引き続き積極的に行っていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>四季を通して隣接施設の行事等に参加し、交流を深めている。また、園児達との交流等も年間を通して、利用者に参加している。</p>	○	<p>地域住民の一員として、事業所と地域が交流できるよう、今後も積極的に地域の行事に参加していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	体験学習、ボランティア、民生委員の見学等を行っている。	○	今後も実習生の受け入れを積極的に行い、職員も初心を振り返る機会等にして、事業所としての質の向上にさらに努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を常に認識し、改善点については、早急に話し合い、取り組み、資質向上に向けて、取り組んでいる。	○	評価項目に基づいて、ケアに努めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の公表を行い、双方より意見交換等を行う。	○	昨年度より、市担当者、家族代表者を交え、報告、意見交換等を行っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との接触の機会は度々行い、また、情報交換を行い資質向上に取り組んでいる。	○	今後も市担当者との連携を深め、更なる、質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、職員の理解を深めている。また、グループホーム連絡協議会等の講習会等にも参加し、制度の理解に努めている。	○	今後、必要な人には活用出来るように、社会福祉協議会や地域包括支援センターとの連携を強めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に言葉かけ等にも注意を払い、職員同士、注意をし合い防止に努めている。	○	今後も職員同士、声かけ合い、注意し、人格の尊重を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約時には、家族に説明を行い、納得を得ている。</p>	<p>○</p> <p>今後も入所前に見学等して頂き、わかりやすく、十分な説明をしていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。また、家族、本人からの苦情時には、即ミーティングを行い、対応している。</p>	<p>○</p> <p>小さな意見、気づき等も受け入れ、管理者や職員で話し合い改善していきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時、生活状況等を話し、月1回のお便りにて報告をしている。また、日常生活の様子等、写真も同封し個々に合わせた報告を行っている。移動、金銭管理等についても、面会時に報告を行っている。</p>	<p>○</p> <p>個々の家族との連絡を密にし、各利用者の状態を報告していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や手紙、家族会で問いかけを行い、苦情、要望を話せる雰囲気作りに留意している。また苦情発生時は、職員ミーティングで話し合っ、反映するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>いつでも苦情、要望を話せる雰囲気作りをしていき、苦情を前向きに受け止め、事業所の質の向上を目指す。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体ミーティング、週1回のミーティング時に職員からの意見を聞くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>引き続き、月1のミーティング、個別面談等の機会を設け、各職員の意見を聞くようにし、改善に役立てたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>1日の中で、入居者本位の暮らしを支援出来る配置になっている。緊急時には休みの時等も応援してくれる人が確保出来ている。</p>	<p>○</p> <p>入居者の状態等に合わせ、臨機応変な勤務(早出・遅出)等、検討していきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>部署替えの移動は年に1回あるが、入居者には特に変化なく支援できるよう説明を行ったり、引継ぎの期間を設ける等し、最善の努力を行っている。</p>	<p>○</p> <p>なじみの職員が対応し、なじみの関係の中で、生活して頂ける環境作りを大事にしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内グループホーム連絡協議会等の交流研修への参加を積極的に取り組んでいる。2ヶ月に1回勉強会を行い、ケアの資質向上に努めている。	○	今後も職場内外の研修を重ね、全スタッフ間で研修内容等を共有し、事業所の質の向上に努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会があり、研修会に参加する事により、同業者と交流勉強会を行っている。	○	他グループホーム等の見学や、研修会での事例検討等を通し、事業所以外の人材の意見、経験をケアに活かしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各週の職員会議、月1回のミーティングの時に気軽に相談、話し合いの場を設け、ストレスを軽減する為の環境作りに取り組んでいる。	○	各種の職員会議、食事会、慰安旅行等を実施し、ストレスを軽減する取り組みを行っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度毎に、個別の面会、アンケート等を実施し、個別職員の業務や思いを把握するよう努めている。	○	今後も運営者と職員が連携を深め、職員も相談しやすい環境作りに努めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面接し本人とよく話しをしたり、情報等により生活状態を把握できる様努めている。	○	信頼関係が構築されるよう、初期の時期より、よく話を聞き要望が引き出せる雰囲気作りをしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と密に話をし、これまでの状況、困っている事等、家族が求めているものを理解し、サービスにつなげる努力をしている。	○	これまでの経緯についてゆっくりと話を聞く機会を設け、事前に対応等について十分に話し合い、その後の関係の構築にも繋げていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と話し合いの場を設け、必要としているサービスを見極め、家族の意向に沿うように対応している。	○	今後も地域のケアマネージャー等と連携をしながら、必要に応じて、他のサービス機関につなげる等し、対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と密に相談を行い、本人の意向に沿ったなじみの環境づくりを作った上でのサービス利用を行っている。	○	安心し納得しながら、サービスを利用することが出来るよう段階的な支援の工夫を家族と共に行っていけるよう努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、入居者になじみの技、文化等を教えてもらう場面を作っている。職員は一緒に、楽しみ、不安を分かち合う気持ちで、常に接している。	○	味噌汁作り、ねぎ植え、米とぎ、花生け等、職員と共に入居者に教えを受けながら行っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に細かく情報交換を行い、お互いに情報を共有し、本人と一緒に支えていく為の協力関係を築けてきている。	○	家族に行事等の参加を呼びかけ、一緒に過ごしてもらう場の提供をしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に家族を誘って、一緒に楽しんでもらえる機会を作ったり、面会時には、本人と家族の潤滑油になるよう心かけ、よりよい関係の継続に努めている。	○	行事等にはお便りを事前に出し、本人と家族の関わりが出来る様になっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くに暮らしたじみの知人、友人と会う機会を作り、継続的な交流が出来るよう心掛けている。	○	一人ひとりの生活習慣を尊重し、知人、友人と継続的な交流が出切るように働きかけている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、利用者同士の会話の橋渡しを行い、関わり合える場面を作る働きかけをしている。	○	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、皆で過ごし会話を多くとるようにし、役割活動を通し、利用者同士が相談し合える働きかけをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退院後の受け入れを、本人、家族の希望に基づいて行っている。退所希望時には、その意向に沿った対応を行っている。	○	退所等された方にも、行事等への案内を出す等して、ご縁が合った方々との関係を大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話、本人の言動、表情により、本人の意思、どうしたいか等の汲みとり把握を行っている。	○	意思疎通の困難な方には、ご家族から意思を聞き、相談をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から、過去の情報を聴き、把握をしている。	○	折に触れ、家族や本人にどんな生活をしていたのか等を聞き、把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間アセスメントシートを作成し、利用者1人ひとりの生活リズムの把握、出来ること出来ないことを把握し、その人全体の把握に努めている。	○	行動や言動を記録し、スタッフ同士で共有し、その言動から感じとり、本人を把握できる様、努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1人ひとりの出来る出来ないシートを使用し、家族、本人の要望等を取り入れ計画書を作成している。	○	本人やご家族には日頃の思いや、意見を聞き、定期的なアセスメントの際には、それらの要望を取り入れ、意見交換を行っている。今後も更なる充実に努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した見直し期間以外でも、体調、状態の変化時、本人、家族の要望、ニーズ発生時には、即ミーティングを行い、現状に即した新たな計画の作成を行っている。	○	介護計画の意味を繰り返し説明し、要望、希望も聞き出せている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者毎に個人記録を用意し、バイタル、水分、食事量、排泄状況、心身状況を日々記録している。全職員が把握し情報の共有をしている。	○	個別記録を基に、介護計画の見直し、評価を実施している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望や、状況に応じ、臨機応変に通院している。	○	希望があれば、ショート等の受け入れを行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域町内会、消防署、民生委員等と協力しながら支援している。消防署とは、日頃の防災訓練の他、講師として招いて救急法の講習会を開催した。また、消火大会の出場もあり、連携と親睦を行っている。	○	地域との接点を見出し、更なる地域資源を開発しながら、継続的なつながりを図っていききたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャー会議に定期的に参加し、情報交換を行っている。	○	必要に応じて、適切に事業所以外のサービスとつなげることが出来るよう、引き続きケアマネジャーとの連携を図っていききたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者は地域包括支援センターと交流し協働している。	○	今後、中央部包括支援センターとの連携を強化していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意の下、かかりつけ医の2週間に1回の往診を受けている。また状態変化時には、連絡をし、適切な対応の指示を受け、支援を行っている。	○	今後も引き続き、家族と協力し、家族同行の受診または、通院介助を行っていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2週間に1回、往診があり、相談、体調の変化等あれば、即連絡し、対応してもらえる医師を確保している。また、認知症についての指示、助言を受けている。	○	気軽にいつでも相談が出来る関係を維持していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同敷地内に医療連携看護師がおり、常に利用者の健康管理や、状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、日頃の健康管理についても、相談、助言、対応を受けている。	○	気軽に相談出来る、看護師を確保している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の状態、支援等に関する情報を提供している。また、入院によるダメージの防止の為に、医療機関、家族との話し合いの機会をもって、回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。	○	家族と共同し、関係医療機関と十分に相談し合いながら、早期退院が出来るように支援している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意思確認書を作成し、説明、同意を得ている。状態変化時には、早い段階で、医師、家族、職員の話し合いの場を設け、家族の意向で今後の意思を決定し、全員で方針を共有している。	○	本人、家族の思いを大切にしながら、状態、症状に適した環境を早期に検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の気持ちを大切にしながら、医師、医療連携従事者、職員が連携をとり、安心、納得した最期を迎えられるよう、取り組んでいる。また、急変の場合には、すぐ対応してもらえる主治医とも連携を密に図り、対応している。	○	本人、家族の意向を踏まえながらも、状態、症状によってホームで出来る限界もあるので、最善の環境を早期に検討しながらすすめていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の都合で他の施設を希望される際は、管理者をはじめ、ケアマネージャーが書類を添付し、関係機関との話し合い、情報交換を行っている。	○	住み替えにより、これまでの暮らしの継続性が活きるようかつ、心理的な不安等が最小限になるよう、細かく情報提供を行い、きめ細かい連携を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が、利用者の自尊心、プライバシーを損ねない対応を行うよう、ミーティング等の折に、意識向上を行っている。	○ スタッフ間でお互いに注意し合う環境作りを行い、更なる意識の向上に努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	おやつメニュー決め等、入居者と話し合っている。また、昼飯に選択メニューを取り入れ、好きな方を選択してもらったり、日々の暮らしの中で選択肢を提案し、選んでもらうような場面を作っている。	○ 利用者一人ひとりの力に合わせて、表情等により、些細な事でも本人が決める場面作りを多く取り入れるように努めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは作っているが、1人ひとりの体調、状態等に配慮しながら、出来るだけ、本人なりの個性のある暮らしが出来よう配慮している。	○ 買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、柔軟に対応していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好み、希望を聞き行っている。衣類、ヘアクリーム、化粧水、髪飾り等は本人の好みに合わせ使用している。月に1回、希望に応じ、理髪師により散髪を行ってもらっている。	○ 一人ひとりの個性、好み、持っている力に応じた本人主体の身だしなみを行ってきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯の炊けるにおいを感じてもらったり、味噌汁作り、メニューについての話をしたり、一緒に食事をつぎ分け、片付けをし、食事にまつわる話をし、食欲を引き出すようしている。	○ 形態の工夫をし目でも楽しんでもらう。また、温かい物は温かく、冷たい物は冷たくと、意識していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は1人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子、状況等を見ながら、それを楽しめるように支援している。(ジュース、梅干し、菓子等)	○ 本人の状況(健康状態等)に応じながら、好きな物を楽しめるよう、対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の訴え時、また、時間毎のトイレ誘導を行い、極力トイレでの排泄で気持ちよい排泄が出来るように支援している。	○	時間誘導、本人が訴えられる時は、常時、誘導を行い、パッド内に失禁がない様に心掛け、支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、週に3回入浴しているが、本人の希望等を聞き、シャワー浴等取入れ、いつでも入浴が出来るようにしている。	○	汗ばむ季節には、シャワー浴等も行い、一人ひとりの気持ち、習慣に合わせた支援を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	心身の状況、希望に応じて、自室で休養してもらう時間を設けている。	○	寝付けない際には添い寝をしたり、温かい飲み物を飲んでもらったり、会話、スキンシップ等を行い、安心して入眠出来る環境作りをしている。今後も努めていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人ひとりに応じ、洗濯物干し、たたみ、食器拭き、花の世話、台所仕事等、依頼したりし、1人ひとりの特徴、生活歴を發揮できる場面を作っている。	○	毎日の暮らしの中で、一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけていき、一人ひとりの持っている力を發揮してもらえよう、支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に合わせて金銭管理を行っている。外出、行事時には、自分でお金を払って頂けるよう、お金を手渡す等の工夫をしている。	○	個別に外出する機会を定期的に作っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の状況、天候等に応じ、散歩、テラスでの日光浴、定期的にドライブに出かける等、心身の活性化に繋げるよう努めている。	○	一人ひとりの習慣、楽しみごとに合わせて、個別に出かけることが出来るよう計画を行っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に利用者、家族協力で行ける機会を作り支援している。	○	普段の会話より、本人の意志を汲み取り、実現する為の方策を職員同士、家族も交え検討し、支援に繋げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別的に電話で理解出来る人に対しては電話を利用している。また、月1回の便りにて、状態を報告、面会時にも同様に行っている。	○	アクティビティとして、文字を書く機会も確保して、残存機能の維持向上も意識し、取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問を積極的に受け入れ、家族との時間を持って頂けるよう、心配りを行っている。	○	家族の方がいつ訪問しても、居心地の良く感じてもらえ、気軽に訪問しやすい雰囲気作りに努めていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを常に、認識のもとで支援している。特に言葉かけ等も心かけている。	○	身体拘束に関する研修会等には今後も参加し、さらに意識づけていきたい。また、スタッフ間で、その日のケアを振り返りお互いに指摘し合っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室等、開放している。	○	今後も安全面に配慮しながら、利用者の状態をきめ細かく把握し、鍵をかけないケアに取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーの配慮には常に心掛け、また、昼夜を通し所在確認の把握をし、歩き廻られる方は特に、安全に心掛けている。	○	今後も昼夜共にプライバシーに配慮を払いながら、安全に過ごして頂くよう努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物使用時は必ず職員が側につき、危険のないようにし、各自の状態に応じて危険物品は管理している。	○	利用者の状況、変化に応じて、随時、見直しを行い対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険性のある方に対しては、職員同士で声かけを行い、見守り実施している。服薬に対しては、薬の再確認を行い、また、声を出し、職員2人で確認し入居者の方々にも理解できる方には確認してもらって、誤薬防止に努めている。	○	ヒヤリ・ハット報告や、危険への気づきを収集し、スタッフ間で共有し、事故防止を検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対策として、バイタルチェックを行い、生命の危険にさらされる可能性が高い時は、主治医、当施設の看護師により、対応している。	○	救急法の勉強会は行っているが、訓練を繰り返し、定期的に行ったりして、事故発生時に適切な対応が出来るよう備えておきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月20日に、避難訓練を行い、年に数回、消防署より消防訓練等の研修を行っている。	○	消防署、環境センター、町内会の協力を得ている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者1人ひとりのリスクについては、その都度の説明を行い、身体拘束をしないという事を、すべての職員が認識しており拘束のないケアを実施している。	○	代替する介護方法ない時は家族の協力を得、抑制等は行っていない。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態の変化を早期に発見できるよう、常に様子観察を行っている。また、密に記録を行い、変化時には医師に連絡し指示を仰いでいる。	○	今後も、体調変化の兆候を見落とさず、早期発見に取り組み、変化等の気づきがあれば、速やかにスタッフ間で共有、報告していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等を保存し、薬の内容等、把握できるようにしている。	○	今後も各入居者の薬に関する情報の共有と幾重の誤薬予防策で、適切な服薬の支援をしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックを記録し、服薬の検討、牛乳、野菜ジュース、腹部マッサージ等行って、排泄に取り組んでいる。	○	今後も服薬のみに頼らず、食事、水分、活動状態等の見直しを行い、自然排便を促す工夫を個別にしていこう。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、1人ひとりの状況に合わせて、介助、一部介助等支援し、口腔内の清潔保持を行っている。(必ず、最後に全入居者の口腔内チェックを行っている)	○	入居者1人ひとりの排泄パターンをつかみ、便秘予防対策を常に行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談を行っている。食事、水分摂取量は個人表に記録をし、把握している。また1人ひとりの状態に応じ、食事形態を工夫している。	○	個別の確認を行いながら、食事の量や献立に偏りがないように配慮していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種、うがい手洗いや、消毒の徹底をしている。また、マニュアルを作成し勉強を行っている。	○	事業所内で起こりうる感染症について細かくマニュアルを作成し、予防、対策を常に新しい知識、技術で行えるようにしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔や衛生を保持し、食品、布巾、包丁、まな板等は、週に2回、また随時滅菌を行っている。	○	調理機器の衛生維持に今後も努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板、花、ベンチ等を設置する等し、入りやすい雰囲気作りをしている。	○	訪ねる人の視点で、安心して出入りが出来るか意見・感想を頂きながら、工夫を重ねていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1室を茶の間にしたり、こたつを置く等、季節感を出し家庭的な空間作りをしている。また、入居者に合わせ、テレビ、ラジオの音量等、日差しにより照明の明るさを配慮している。入居者に応じた会話のトーンでの話、意思疎通がなされている。	○	入居者が自分の住んでいる家だという、意識を高めてもらえるよう、五感に働きかける家庭的な物、事を多く生活の中で取り入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやこたつ、ベランダにベンチを置く等して、それぞれが自由に過ごせる空間を作っている。(予備室を確保し、茶室、家族の宿泊室に使用可能)	○	くつろぐことが出来る空間作りを、入居者やご家族の意見を聞きながら、随時行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力も得、使い慣れた家具、布団、飾り物等を持ち込み、馴染みの環境作りを行っている。	○	本人の意向を確認しながら、なじみの物を活かして、その人らしく居心地良く安心して過ごすことが出来るよう、今後も努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適時換気を行い、入居者に空調等(暑さ、寒さ)を聴聞して、調節している。利用者によっては、居室に消臭剤を設置している。	○	今後も適時の換気を入居者の様子に配慮しながら、行っていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者と共に毎日の洗濯、家庭的な事等は共に行っている。	○	一人ひとりの状態に応じた設備や道具の工夫等を行っていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	広々としたスペースでバリアフリーにより、安全で入居者が自立した生活が出来るよう考慮した作りである。	○	スタッフ間で話し合いながら、状況に合わせて個々の活動意欲や動きがスムーズに進むよう探りながら、環境整備に努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスには、物干し場を設け入居者と共に洗濯物を干している。玄関先には花壇を作り入居者と共に世話をしている。同敷地内には菜園があり、時に見学、収穫祭を行っている。	○	今後もテラス等の戶外スペースを活用し、外気浴を楽しむ等し、心身のリフレッシュを支援していきたい。また、野菜の栽培等も計画していき、楽しみにつなげることが出来るよう検討していきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者同士、語り合える楽しい空間が保たれ、つくられている。1人が皆の事を、皆が1人の事を考え、生活している。